

令和4年（第67回）秋田県文化功労者

（年齢順、敬称略）

技 芸 （能楽謡曲の普及・発展） 太 田 精 一

文 芸 （俳句の普及・発展） 山 崎 雅 葉

農林業・畜産 （酪農の振興・人材育成） 佐 藤 篤 右

民生・社会福祉 （修学支援の拡充） 小野寺 清

美術・工芸 （七宝の普及） 湊 征 子

保 健 衛 生 （地域医療・保健の向上） 市 川 晋 一

産 業 （醸造技術の継承・人材育成） 山内杜氏組合



能楽謡曲の普及・発展

おお た せい いち
太 田 精 一

(93歳)

住 所 秋田市

日本の代表的な伝統芸能である能楽に強い関心を持ち、昭和44年から謡曲を学び始める。平成2年には観世流に入門し、中央の能楽師に師事するなどさらに研鑽を積み、今日もなお精進を重ねている。

平成14年には、画家小杉放菴作詞の新作謡曲「象潟」を国民文化祭（鳥取県）で上演し全国から注目を集めるとともに、放菴の出身地である日光市関係者と交流を深めるなど、埋もれた文化の発掘、発信活動を地道に行ってきた。

平成16年から5年間にわたり秋田県観世流謡曲連盟会長を務めるとともに、平成19年には秋田県謡曲連盟の会長に就任。かつて無い三流（観世・宝生・喜多）連携の融和を実現するなど、本県謡曲の発展に大きな足跡を残した。



俳句の普及・発展

やま ざき が よう
山 崎 雅 葉
(本名 ^{やまざき}山崎 ^{しつろう}志津郎)

(89歳)

住 所 横手市

中学時代に俳句教室で学んだことをきっかけに俳句を始める。以後70年以上にわたり、俳人として優れた活動を行うとともに、俳句文芸の発展向上と地域文化の振興に貢献してきた。

県の「あきたの文芸」俳句部門選者を務めたほか、平成26年ににかほ市で開催された「国民文化祭・あきた2014奥の細道全国俳句大会」や、平成29年に湯沢市で開催された「全国健康福祉祭ねんりんピック秋田2017俳句交流大会」において企画実行委員及び大会審査員を務めた。

これまでに、秋田県芸術文化章のほか複数の賞を受賞しており、その活躍は県内外から高く評価されている。



酪農の振興・人材育成

さ とう あつ う
佐 藤 篤 右

(82歳)

住 所 秋田市

昭和26年に父親が酪農を始めたことにより、小さい頃から搾乳や日常の飼養管理作業を手伝い、何よりも牛が好きだった。昭和30年代前半からの良質なタンパク源として牛乳の安定供給を図る国の動きを背景に、畜産コンサルタントとして酪農家の経営・技術指導に取り組む。

また、酪農業の所得向上による経営の安定化を目指し、早くから乳用牛の乳量・乳質の向上等を目的とした牛群検定の普及拡大を促進するとともに、牛の個体識別による適正管理を目的とした家畜個体識別モデル実証事業を、全国に先駆けて実施した。

平成20年には酪農後継者組織「アキタデイリークラブ」を設立し、若手酪農家の技術向上と情報交換の支援に取り組んでおり、今回の規模拡大やICT機器導入による生産性の高い酪農経営に結びついている。



修学支援の拡充

おの でら きよし
小野寺 清

(82歳)

住 所 秋田市

平成22年に財団法人秋田県育英会理事長に就任し、その後公益財団法人への移行を主導するとともに、令和4年3月に理事長職を辞するまで一貫して奨学金制度の拡充を図るなど、新たな認定法人としての基盤を固めた。

奨学金の貸与枠については、従前の高校生・大学生から専修学校生へ広げるとともに、多子世帯向け奨学金を創設するなど、対象者及び対象範囲を拡大し、経済的理由により修学が困難な多くの生徒・学生を支援した。

また、「奨学金は将来の自分に対する投資で、これを活用して社会へ羽ばたいてもらいたい」と願い、毎年その意義を説きながら奨学生証を各人に手交し、機会を捉えては東京の学生寮に出向いて寮生を叱咤激励、本県の若者の育ちを見つめ続け、人材育成に尽力した。



七宝の普及

みなと

湊

まさ

征

こ

子

(78歳)

住 所 秋田市

新潟市に暮らしていた頃、七宝作家の作品に魅了され、仕事帰りに七宝教室に通い始め、その後退職し本格的に七宝を基礎から学ぶ。結婚を機に秋田市に移住するが、引き続き月1回新潟市に通学し技術を磨く。

秋田県における七宝の先駆的指導者であり、平成6年の秋田ふるさと村体験工房開設に伴い、体験メニューや指導プログラムの作成に参画し、平成31年1月の秋田ふるさと村工芸展示館「七宝展示コーナー」創設の先導的役割を果たした。

昭和50年の秋田美術展覧会への初出展・初入選を皮切りに、東北現代工芸展・奨励賞、昭和58年と平成11年には日展・入選を果たすなど自身の研鑽を深めるとともに、20年以上の長きにわたり七宝工芸を通じた障がい者の生きがい創出と自立支援に積極的に寄与し、障害者福祉の向上にも貢献している。



地域医療・保健の向上

いち かわ しん いち
市 川 晋 一

(71歳)

住 所 仙北市

へき地医療を志して、兵庫県姫路市より秋田大学医学部に入学。医学博士取得後に総合病院勤務を経て、当時無医村だった西木村の西明寺診療所で診療を開始、今年で22年目となる。

泌尿器科（排尿障害）専門医で、県内唯一の排泄ケアを研究し実践する「秋田県コンチネンス勉強会」を設立し、排泄ケアの指導に尽力している。また、その成果を学会等で発表し専門書を出版するなど、県民への啓発活動とともに介護・訪問看護師研修講座での講演等を通じ、人材育成にも取り組んでいる。

また、仙北市温泉療養研究会会長を務め、温泉療養医として仙北市と共同で温泉浴マイスター制度を創設し、観光地での温泉に関わる人材育成にも貢献している。

今年5月、長年の地域医療への貢献が評価され、日本医師会「赤ひげ大賞」を受賞した。



醸造技術の継承・人材育成

さん ない と じ くみ あい
山 内 杜 氏 組 合 (組合長 てる い とし お 照井 俊男)

所在地 横手市

明治末期から大正時代にかけて、農閑期の働き場が少なかった横手市山内地区（旧山内村）では、県内（特に湯沢市）の酒蔵が冬場の働き口として定着する中で、大正11年、秋田の杜氏の養成と酒造技術の向上、並びに酒造労務者の円満な確保を図る目的で「山内村杜氏養成組合」が創立された。その後「山内村杜氏組合」、そして現在の「山内杜氏組合」と改称しながら、第二次世界大戦による中断はあったものの、夏季に酒造講習会を開催し、杜氏試験や表彰の実施、組合員の県外酒造場への派遣・視察研修などを実施してきた。現在は、県内出身の杜氏組合員150名ほどが加入する全国規模の組合に発展。

伝統的酒造りに欠かすことのできない杜氏の育成と技術の向上を図り、秋田の酒造り文化の発展に大きく貢献している山内杜氏組合は、今年（令和4年）創立100周年を迎えた。